



# 黎明期の常願寺川 — 治水と砂防 —

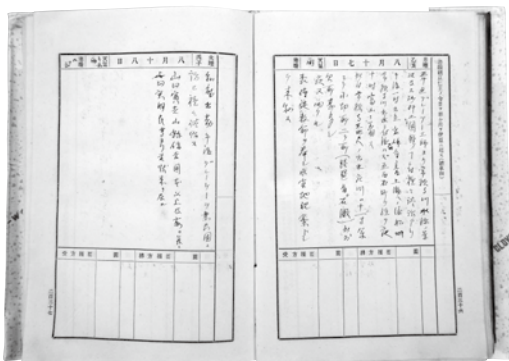
◆会場：立山カルデラ砂防博物館 エントランスホール、企画展示室 ◆企画展観覧料：無料

## 暴れ川 — 常願寺川 —

古来より度々洪水を引き起こし、先人たちはその度に立ち向かってきました。常願寺川沿いにひっそりとたたずむ「佐々堤」や「済民堤」などはその名残です。

明治に入るとオランダ人技師ヨハニス・デ・レイケ指導のもと、ヨーロッパの近代技術を取り入れた大改修工事が行われます。しかしその後も水害は繰り返され、1906(明治39)年には源流部立山カルデラでの砂防工事が開始されました。現在カルデラには白岩堰堤をはじめとした砂防施設が100以上築かれ、富山平野を土砂災害から守り続けています。

本展では水害と治水、そして砂防の歴史を追い、たび重なる水害にどのように先人たちが対峙し、乗り越えてきたのか。これらの歩みを知るとともに、郷土富山の歴史に関心を深めていただければ幸いです。



富山県技師高田雪太郎が残した日記  
富山県技師高田雪太郎はオランダ人技師ヨハニス・デ・レイケとともに常願寺川改修工事に従事しました。高田が残した日記には1891(明治24)年8月に、デ・レイケと調査に訪れたことが記録されています。日記には「デレーケー工師ヨリ常願寺川源流ノ景況及土砂并止困難ノ事二付種々談話アリ」と、上流立山カルデラの土砂流出を防ぐことは困難であると書き記されています。



白岩堰堤(国指定重要文化財)

1926(大正15)年から国による直轄砂防工事が始まりました。白岩堰堤は常願寺川水源地における山腹、河床の土砂を安定させることを目的に、カルデラの狭窄部に設けられました。日本有数の急流河川である常願寺川の基幹砂防施設として建設され、今なお富山平野を土砂災害から守り続けています。



富山県が施行した湯川第1号堰堤

立山カルデラに堆積した土砂の流出を防ぐために、富山県は1906(明治39)年から砂防工事に着手しました。湯川第1号堰堤は工事の基幹となる砂防堰堤として、1913(大正2)年に着手されましたが、1919(大正8)年と1922(大正11)年の豪雨により根底から破壊されました。この災害は国による直轄砂防工事の契機となります。



山と川と人のミュージアム

## 富山県 立山カルデラ砂防博物館

〒930-1405 富山県中新川郡立山町岩峠寺字ブナ坂68 TEL. 076-481-1160 FAX. 076-482-9100  
ホームページ <http://www.tatecal.or.jp/tatecal/index.html>

- 開館時間 / 9:30 ~ 17:00(入館は16:30まで)  
※夏季期間(7月25日~8月31日まで)は8:30開館、  
9月15~17日、22~24日は9:00開館
- 休館日 / 7月9日(月)、17日(火)、23日(月)、9月3日(月)、  
10日(月)、18日(火)、25日(火)、10月1日(月)
- 企画展観覧料 / 無料
- 常設展観覧料 / 大人400円、大学生以下及び70歳以上の方は無料
- 交通 / 富山地方鉄道<立山駅>から徒歩1分  
北陸自動車道<立山I.C.>から車で約40分

